

社団法人私立大学情報教育協会
平成20年度第1回英語学教育FD/IT活用研究委員会議事概要

I. 日時：平成20年6月7日（土）午後4時30分～午後6時30分

II. 私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者： 山本委員長、田中副委員長、五十嵐委員、小林委員、西納委員、小野委員
井端事務局長、森下、恩田

III. 検討事項

1. 「英語学教育における学士力について」
2. 「今後の活動について」
3. 「その他」

議事録

1. 英語学教育における学士力について

本年度は委員会として「中央教育審議会」の審議のまとめを参考に、「英語教育における学士力」を検討することとした。

- ・ 大学教育に対して、社会の声、求めるものが変わってきており、その視点での検討は必要。
- ・ 学部卒業生が卒業時に身に付ける能力の指針、イメージである。
- ・ 学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針のコミュニケーションスキルの部分に外国（主として英語）が表現されている。
- ・ 「学習成果」に関する参考指針をベースに分野の学士力を検討する。
- ・ 9月までに社会の声も加えて、全ての学系分野で検討、まとめる。

2. 検討内容

「学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針」における「2. 汎用的技能 (1) コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。」における、「能力」に関して2行ぐらいの定義を9月末までに作成することとし、各委員の意見、説明が行われた。

議 論

各委員の意見

- ・ アウトカムが説明でき、測定可能で実行できることが必要。
- ・ 社会の求める要請に応える事も必要である。
- ・ 学習者が継続的に知識、技能、能力を高められることが必要。
- ・ 従来は技能（スキル）が重要視されてきたが、学士力としては知的能力が必要。
- ・ 生涯に亘って、どのような環境でも利用できる、応用できる能力を身に付けさせる必要がある。
- ・ 小・中・高校の役割も含めた検討が必要。
- ・ 英語教育の学士力とはどこを意味するのか。
外国語学部等の場合と、経済学部等の他学科ではどこに基準を置くのか。
それぞれの目標があってよいのではないか。
- ・ 自律学習や、到達度判定システムも必要である。
コアは授業である。
あくまで対人評価であり、やってみて評価できる仕組みが必要。
Can Do リスト等のある程度自己評価できるしくみ
自己、グループ、学習している仲間と評価できるような仕組みも必要。
- ・ 中学、高校の学習指導要領のような明確な目標が無い。
卒業時にどう能力判定するのか。

- ・ 英語だけ切り離せるのか、論理的思考力、分析力等が英語にも関わってくる。
- ・ 日本語でのコミュニケーション力が無ければ英語のコミュニケーションは有り得ない。
- ・ NAFSA (Association of International Educators) では Knowledge、Skill、Attitude の3つに能力を分けている社。会が期待し、求めるレベルは何か、社会の求めるものを理解する必要がある。
 質問できない → 質問する能力 批判力 → 比較、批判的に見る力、表現方法等
 質問 → ① 解らない質問 ② 儀礼的質問 ③ 親密感を出すための質問
 こうしたことを教える必要がある。
- ・ 日本の英語教育の視点で考えることも必要。
 卒業生が社会に出て、「これを大学でやっておけばよかった」と感じた。このような事例を集めて対策を考えると、社会が求めるものが見えてくるのではないか。
- ・ 社会の意見として三菱商事から聞いた意見
 TOEIC 500点の基礎力があれば企業で訓練して育てられる。

3. まとめ

今日集まった資料、発表していただいた意見を参考にして、アウトカムとしての学士力を検討していきたい。

- ・ 本日の内容をベースに各委員の考えをまとめて次回の委員会で検討したい。
- ・ 検討した「英語教育における学士力」(案)は各項目1～2行で端的にまとめ、私立大学の語学系教員1,270人(サイバーFD研究者)の意見を聞き、さらに企業や社会の意見も加えてまとめたい。

4. 次回の予定

次回は7月19日(土)11時から 私情協会議室で実施

7月12日までに本日の内容をベースに各委員は考えをまとめてメールで提出する。